

1 教育・研究目的

大学の教育研究上の目的に関すること

■和歌山大学の目的及び使命

国立大学法人和歌山大学が設置する和歌山大学は、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究、教授し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成することを使命とする。(和歌山大学学則第1章第1条)

■大学の基本的な目標（中期目標前文）

和歌山大学は、高野・熊野世界文化遺産など豊かな歴史と環境に育まれた和歌山県唯一の国立総合大学として「地域を支え、地域に支えられる大学」であるとともに、持続可能な社会の実現に寄与することを宣言する。

その実現のため、3つの基本目標を掲げる。

1. 和歌山大学は、現代の学生の、青年期に至る人間形成上の諸課題を深く認識し、教養教育、専門教育によって「生涯学習力」を培った市民・職業人として社会に参加し、その発展に寄与できる人間を育てる。
2. 和歌山大学は、紀伊半島を含む黒潮文化圏という歴史、自然、経済、文化を活かした研究活動によって創造された知見を活かし、地域から日本と世界の発展に寄与する。
3. 和歌山大学は、教員の多様な問題関心に基づく諸活動を尊重し、職員の主体的な職務遂行を支援、学生が高度な理論と実践力を修得するとともに「学生満足」が充足される大学生活を送ることができるよう支援を強化する。また、教員・職員・学生相互の信頼関係のもとでの協働と参画を通じて、「自主・自律・共生の気風にあふれる大学」であることを目指す。



■和歌山大学 2013～2015 行動宣言

国立大学法人和歌山大学は、この間第2期(2010年4月～2016年3月)の中期目標・中期計画に基づいて教育、研究、大学経営を展開してきました。

特に2011年1月以来、第2期中期目標・中期計画の重要諸課題を絞り込んだ「2011-2013 行動宣言」は、和歌山大学改革のシンボルとして学内外の大きな共感をえて、予算獲得も含めて多くの成果を上げました。

2013-2015年行動宣言は、前宣言の成果・到達をふまえ、第2期後半期の焦点的課題を明示したものです。和歌山大学は、この8つの課題の実現を強く意識しつつ、全構成員の参画と協働で第2期中期目標・中期計画の諸課題を総合的に実現するべく大学経営を遂行します。

これまでの研究成果の蓄積及び専門教育の深化と連動しつつ、 時代と社会が求める深い教養と、自ら考え、自ら行動し、 他者とともに問題解決に取り組むことのできる実践力をもつ人間を育てます。

- ①各学部・研究科における特色あるカリキュラムの実践とともに、2012年10月には教養教育に責任を持つ組織として「教養の森」センターを設置し、本格的な教養教育改革に着手しました。大学の構成員(教員・職員・学生)間の連携強化を図りつつ、2014年4月からの教養科目の再編成を目指します。
- ②キャリア支援・キャリア教育、国内外のインターンシップなどにおいても、問題解決に取り組むことのできる実践力の養成に努めました。今後は、アクティブラーニングなどの手法を導入するとともに、学部・専門領域を超えた協働型の教育プログラムの開発に取り組みます。
- ③学生の異文化理解力を養うために ASEAN 諸国における体験型学習プログラムの拡充を図るなど、学生が主体的に学び続けることができる環境づくりやそのための教育組織・体制の整備を行います。

教育・研究・地域貢献を三位一体として

『知(地)の拠点形成事業(COC)』に取り組み、学生が大学での学びを通して地域の課題等の認識を深め、解決に向けて主体的に行動できる学生を育成するとともに、地域再生・活性化の拠点となる地方国立大学を形成します。

- ①「地域を支え、地域に支えられる大学」として、これまでに取り組んで来た教育・研究・地域貢献に関する知識と経験を生かし、和歌山圏域の抱える人口の減少や高齢化、地域産業の活力の低下などの課題解決のため、個人・学部の枠を越えた全学的取り組みとして『知(地)の拠点形成事業』を展開します。
- ②本事業を和歌山大学の重点事業のひとつとして、これらに取り組む学内組織・教職員及び地域における関係機関、企業、NPO法人等を積極的に支援します。
- ③本事業における研究及びフィールドワークなどの成果に基づき、新たな学生の教育プログラムを構築します。

和歌山大学の教育・研究拠点の整備を進めるため、図書館の施設・設備・機能をさらに充実させるとともに、教養教育、わかやま学、グローバル教育などの連携を深め、和歌山に育ち世界に羽ばたく優秀な人材の発信基地とします。

- ①学生が集まる場所、主体的な学習の場所として、図書館を活性化するため、施設の増・改築、設備の充実などを行うとともに、教養科目の「教養の森ゼミナール」を図書館内で開講するなど教養教育との連携を図ることなどにより、図書館機能を強化しています。
- ②今後とも、各学部における専門教育の深化、教養教育改革の拠点として、また紀州経済史文化史研究所を中心とした『わかやま学』の充実、国際教育研究センターを中心としたグローバル教育の進展とも連動しながら、さらなる教育・研究機能の充実に努めます。
- ③これらの図書館機能の強化により、図書館の利用者数は増加傾向にあります。引き続き、全ての利用者の関心に応えられるレファレンスを重視した図書館運営に努めます。

教育及び地域貢献の基礎となり、和歌山大学という高等教育機関の存立の基盤である研究の充実を図りイノベーションの創出を支援するとともに、学内及び国内外との共同研究や企業・自治体等との研究上の連携を強化します。

- ①観光学研究の中心拠点の構築と世界レベルの研究への発展、文部科学省が策定する「理工系人材養成戦略(仮称)」に対応した研究の充実や大学院への社会人受け入れの促進など、時機に適したさまざまな課題に積極的に取り組みます。
- ②教育組織と教員(研究)組織を分離し、限られた学内資源を有機的連携のもとに有効活用することにより研究交流及び共同研究を促進するなど、研究環境の改善に努めます。
- ③新たな発想を生みだし、それらが成熟した研究プロジェクトに至るまでの過程において、より円滑に研究活動を発展させることができるよう、引き続き、研究組織及び研究支援システム等のあり方について検討します。